

## 第28回「大阪の消防大賞」受賞者

### 消防職員の部

所属	受賞者	功績概要
堺市消防局	中消防署 第2警防課 16名	<p>平成24年6月22日未明の豪雨で浸水被害を受け、非常用を含めた全電源を喪失した堺市中区の病院に震災用発電機を運び込み、電力復旧までの約2時間、入院患者らの安全を確保した。</p> <p>同病院は濁流が流れ込み1階で約60センチ、地下電気室も約100センチまで浸水した。入院患者113人のうち6人は電力の不可欠な人工呼吸器を装着していたため、隊員は消防車両などに積載している発電機や震災用発電機の計3基を病棟3、4階に投入し、電力の復旧を行った。</p> <p>また、土のう50袋を積んで浸水を防ぎながら上下水道局の排水作業を待つ間、応援部隊や看護師らと連携。患者の他院への搬送も想定しながら容体管理を行うなど、冷静かつ適切な判断で2次被害を防いだ。</p>
堺市消防局	堺消防署 第2警防課 旭ヶ丘出張所 救急隊（3人）	<p>知識と技術、経験を生かし、心肺停止となっていた男性への適切な蘇生処置で心拍・呼吸を再開させた上、病院に搬送。約1カ月後にはリハビリで社会復帰を目指せるまで男性を回復に導いた。</p> <p>平成24年1月17日昼すぎ、119番で堺市堺区の共同住宅に出動した救急隊員3人は、妻に支えられて自宅廊下に座り込む男性が心停止していることを確認。11階という搬送に不利な状況を考え、現場で薬剤を投与し胸の圧迫と人工呼吸を繰り返したところ、男性は約4分後に心拍と自発呼吸を再開。救急車に収容後も男性の状況を詳しく観察し、搬送先の病院でも必要事項を的確に伝え、担当医から高い評価を受けた。</p>
吹田市 消防本部	指令情報室 指令第2グループ 森田 翔平	<p>乳児が浴槽でおぼれてしまい動転する母親に119番の電話口で、人工呼吸や心臓マッサージを教えるなど迅速かつ的確な指導で、心肺停止状態にあった幼い命を救った。</p> <p>平成24年5月18日夜、吹田市山田東の民家から、「子供が浴槽に沈んでいた」と119番があった。母親が生後9カ月の女兒を入浴させ、数分間目を離したすきのこと、女兒は心肺停止だった。通報を受けた森田消防士長は動転する母親に冷静になるよう呼びかける一方、ドクターカーなどの出動を要請した。母親に人工呼吸と心臓マッサージの方法を教えると女兒は嘔吐し、さらに続けさせると呼吸を再開。現場に到着した救急隊に対応を引き継ぎ、事なきを得た。</p>

所 属	受 賞 者	功 績	概 要
枚方寝屋川 消防組合 消防本部	警防部警防課 (5人)	<p>走行中の自動車の火災について、部品量販店による部品の取り付けミスが原因だったことを緻密な調査で突き止め、販売業者や整備業者に注意を喚起した。調査結果は国に情報提供され、メーカーも取り付け間違いを防ぐ構造に部品を改良するなど、同様な火災の全国的な予防に貢献した。</p> <p>火災は平成 24 年 2 月 7 日に枚方市の幹線道で発生。同課は国土交通省との共同現場検証で車体に付着したオイルの漏れを見逃さず、火災の 10 日前にオイルエレメントを交換した際、オイル漏れ防止の O リングが正規の位置からずれて取り付けられたことが火災の原因だったと結論づけた。</p> <p>社会環境が著しく変化し火災原因も多様化する中、新たな知識や技術の練磨に取り組んできた成果として評価された。</p>	
豊中市 消防本部	救急救命課	<p>心臓疾患で倒れた人の生存率で全国トップクラスを誇る豊中市は、「救える命を救うまちづくり」をさらに推進するため、平成 22 年に「救命力世界一」を宣言。所管課である同課は救急体制と高度医療の充実に加え、市民の救護意識や技術の向上に力を入れており、22 年から計 6 万人以上が救命講習を受講。また、全国でも珍しい、市内全小学校の高学年対象の「ジュニア救命サポーター事業」を実施し、これまでに約 7,000 人の児童が応急手当てを学んだ。</p> <p>今年 2 月には講習を受けた児童が、入浴中に浴槽で倒れた男性を発見。緊急の事態にも動揺せず周囲の大人を呼び、救命に協力するなどの実績</p>	

## 消防団員の部

所 属	受 賞 者	功 績	概 要
富田林市 消防団	300人	<p>時代とともに複雑・多様化する災害に対応するため、分団レベルでの資機材の充実、団員の資質向上、意識改革に努力を続け、特に災害現場での団員の安全管理の基本ルールを重視している。</p> <p>一方、南海トラフによる大規模地震災害など消防団による初動活動を意識し、倒壊家屋からの救出訓練や全団員対象の救命講習を行っていることなども評価された。</p> <p>市に対しても装備の必要性を訴え、一般的な救急・救助資機材のほか、水災害や夜間の災害に対応できる高度な資機材の配備を実現。また、平成 22 年には大阪府下で初めて消防団ラップ隊を結成し、団員の規律や部隊統制の徹底、士気の高揚を図っている。</p>	